

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

主権者意識を持ち、よりよい社会や自分の姿を構想する学習展開の工夫

2 成果（○）と課題（●）

(1) 社会とのつながりを実感し、主権者意識を高める単元構成の工夫

- 地理的分野の「アボカド」や公民的分野の「公園廃止問題」など、生徒にとって身近な教材を中心に単元構成を工夫したことで、社会における課題についてリアリティを感じさせながら追究したり、自分の生活や将来との関わりを実感させたりすることができた。
- 各分野で働かせる見方・考え方に着目して、授業中の問い掛けを工夫したり、練り合い高め合いの場面で思考を深める発問を意図的に設定したりしたことで、推測や感情論ではなく、根拠を明確にした論理的な考察を行うことができ、生徒が課題に対する考えを自信を持って述べようとするなど、主体的に学習に取り組む態度の育成にもつながった。
- 地理的分野や公民的分野の実践では、授業を通して地球的課題や現代社会の諸課題に対する自分の関わり方や、課題解決に貢献できるという自覚を育むことができ、主権者としての意識向上につながったといえる。
- AI との対話や外部人材との対話など、多様な他者と思いや考えを共有したり、意見し合ったりする場面を設定したことで、生徒自身が自己の考えを見直し、深化させることができた。特に、生成 AI を活用したことは、生徒同士では得られない追究の視点や知識を多く獲得させられたことが成果である。また、外部人材や級友との対話を通して、自分自身の考えや判断を独りよがりなものではなく、より公正な判断へと高めることができた。
- 地球的課題や現代社会の諸課題などを扱った単元を構成して課題を自分ごととして捉えることをねらったが、その意図に反して生徒が自ら「追究したい」「解決したい」といった課題意識を高めていたかについては疑問が残る。単元で取り扱う社会的事象と生徒の意識をつなぐための手立て（継続性のある外部人材の活用、考察・構想した成果を評価し合う活動など）の工夫が必要である。
- 社会参画しようとする意識について、課題解決などに対する関心は高いが、具体的な行動や方法がよく分からないという生徒がいた。主権者としての意識を更に高めるためには、市民の行動が社会に影響を与えることを実感させたり、社会参画のための具体的な方法や制度について理解させたりする必要がある。

(2) 生徒が自分自身の学びを広げ、深めることができる評価方法の開発・実践

- LOPP（ロイロノートを用いた一枚ポートフォリオ）を活用して、毎時間の振り返りを積み重ね、単元の終末には学習問題に対する単元前後の考えの変容を見取らせたことで自己評価を充実させた。これにより、多くの生徒が働かせることができる見方・考え方の広がりや単元の学びの深まりを実感することができた。
- 単元全体の振り返りを行う場面で、学習のまとめを生成 AI や級友と相互評価したり、「自己の考えに影響を与えた発言」を想起させながら記述したりすることで、自分自身の思考を広げたり深めたりする上での多様な他者の有用性を実感することができた。
- 単元目標とパフォーマンス評価を行う際の評価基準の整合性が取れていなかったり、生徒に評価基準を理解させることが不十分だったりして、課題に対する成果物の内容に大きな差が見られた。教師が設定した評価規準（評価基準も）を生徒に丁寧に共有し、学習への見通しを明確に持たせることが大切だと感じた。
- 課題に対して考察・構想した成果について、生徒同士だけではなく外部人材の方などからも評価していただく場面を設定することで、多様な視点から自己の考えを見直し、学習内容の理解を深めることができるような評価の工夫が必要である。

3 次年度に向けて

今年度は、様々な分野や単元で生徒が「主権者としての自覚」を高めるための教材開発や単元構成を工夫することができた。来年度は、今の自分にできることを自覚したり、自分に足りないことは何かを思考したりするなど、自分自身のメタ認知の力を高めるための学習指導方法や評価の工夫を中心に研究を進めていきたい。そして、未来社会の「よりよき」について主体的に追究し、責任を持って社会の変革を目指そうとする生徒の育成に努めたい。